

〈研究論文〉

イベント参加におけるリスク要因認識の国際比較： 中国人と台湾人を事例に

岩 本 英 和

【要旨】

本研究の目的は、イベント参加者が懸念するリスク要因における認識度合いを明らかにすることである。事例として中国人と台湾人を対象にアンケート調査を実施している。アンケート調査は、回答者の属性情報とイベント参加者が懸念するリスクに関する15項目の2部構成で、中国人140名と台湾人131名の計271名のアンケート票を収集している。研究の方法では、回答者の属性情報とイベント参加者が懸念するリスク要因における認識度合いを記述統計を用いて分析し、中国人と台湾人の2つのグループのリスク認識の差異を明らかにするためにロジスティック回帰分析を用いる。記述統計においては、双方とも「感染症」と「テロ行為」への認識度合いが高いことが明らかとなった。一方で、リスク要因の認識度合いにおける双方の差異においては、中国人回答者が「地震」、台湾人回答者が「感染症」をよりリスクと捉える傾向があることが分かった。国・地域によってリスク要因の認識度合いが異なることを想定した包括的なリスク・マネジメントが必要である。

キーワード：MICE、イベント、リスク・マネジメント、アンケート調査

1. はじめに

本研究の目的は、イベント参加者が懸念するリスク要因における認識度合いを明らかにすることである。事例として中国人と台湾人を対象にアンケート調査を実施する。今日、新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の影響もあり、国内外のイベントの多くは中止を余儀なくされている。一方で、イベント開催は開催地周辺地域への経済波及効果が高く、インバウンド観光の観点からも外貨獲得の手段として重要視されている。

イベントは、観光分野においてMICE¹として位置づけられている。MICEは開催地域を中心に大きな経済波及効果を生むとされ、日本のインバウンド観光にとって主要な柱の一つと位置づけられている。2008年に観光庁が設置された際にMICE担当官をおいて事業の拡大が行われ、2009年には観光庁が進める「国際交流拡大のためのMICE推進方策検討会」において、「MICE推進アクションプラン²」がまとめられた。その翌年の2010年を日本のMICE元

年と位置づけ、「Japan MICE year³」と定められた。2012年には有識者や MICE 関係者からなる「MICE 国際競争力強化委員会」が発足し、2013年には、「グローバル MICE 都市／グローバル MICE 強化都市⁴」を実施するなど、各地域の連携強化を推進している。

また、観光庁は、2015年に「国際会議参加者の会議後の動向に係る調査事業」、「地域の特性を活かした MICE の推進に係る調査事業」を実施し、2016年に「MICE の経済波及効果及び市場調査事業」において、国際会議による経済波及効果が我が国で初めて算出された。2017年の「MICE の経済波及効果算出等事業」では、国際会議による経済波及効果に加え、MICE における企業会議 (M)、企業の報奨・研修旅行 (I)、展示会・イベント (E) を含む 2016年の MICE 全体の消費額が明らかになった。2016年の MICE 全体の総消費額は約 5,384 億円であり、経済波及効果は約 1 兆 590 億円と推計された (観光庁、2017)。また、MICE 開催に伴う経済活動によって生じた雇用創出効果は、我が国全体で約 96,000 人分、税収効果は約 820 億円と推計された (観光庁、2017)。

MICE の経済波及効果が高い理由には、滞在時間が長いこと、利用施設が多岐にわたること、単身ではなく複数参加が見込まれること、リピーターが多いこと、季節変動が少ないことなどがあげられる (田部井、2010)。観光庁 (2017) による調査では、訪日外国人の一般的な旅行支出は約 15～16 万円と言われているが、MICE の展示会・イベント (E) の外国人 1 人当たりの総消費額は約 27.5 万円である。また、その他にも開催地の知名度やイメージアップが期待できること、人・物・情報の交流促進すること、国際化・ホスピタリティの醸成することなど社会的効果も高い (田部井、2010)。MICE は国際収支の観点からは外貨獲得の効果、つまり輸出産業と同じ効果があるため国外での MICE の誘致活動は極めて盛んである (Lau, Milne, & Johnson, 2005)。

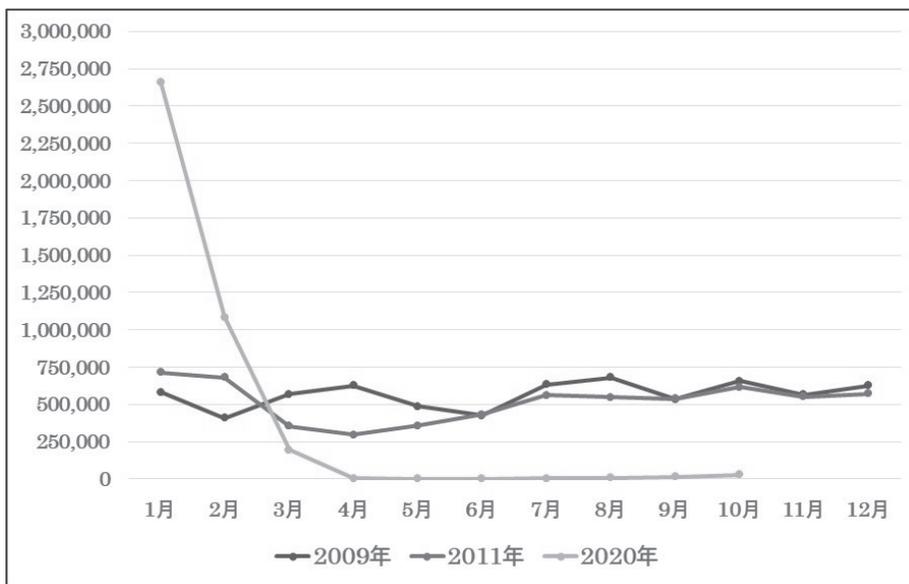
日本政府観光局 (以下、JNTO) によると、2019年の訪日外国人旅行者数は、前年比の 2.2% 増の 3,188 万人であり、訪日外国人旅行者数の統計を取り始めた 1964 年以降、最多となった。2020 年は、東京オリンピックもあることから数値目標であった 4,000 万人への期待がかかっていた。しかし、COVID-19 に伴う渡航制限による訪日外国人旅行者の激減によってインバウンド観光は深刻な影響を受けていることから、我が国では国内旅行の需要喚起が期待されている。一方で、外貨獲得の観点からインバウンド観光の早期回復が望まれており、感染者数が比較的低い水準にあるアジア圏からの旅行者の早期回復に期待がかかる。COVID-19 の拡大は観光産業において未曾有の危機を与えているが、観光産業がテロ行為や戦争、そして感染症、自然災害などの影響を受けやすいことは以前から指摘されている (Park & Reisinger, 2010)。

訪日外国人旅行者の誘致が本格的に始まった 2003 年のビジット・ジャパン・キャンペーン (VJC) から増加傾向にあった訪日外国人旅行者数も地震や感染症などの影響により、前年より訪日外国人観光客数が減少した年もあった。

2009 年は世界経済の後退と新型インフルエンザの影響で訪日外国人旅行者数は前年比の

20%減となった。また、2011年は東日本大震災の影響で訪日外国人旅行者数は前年比の28%減となった。そこで、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行した2020年と2009年と2011年の訪日外国人観光客数の動向を比較する⁵。

図-1 月別の訪日外国人旅行者数



(出所) JNTO (2009, 2011, 2020)

2020年の訪日外国人旅行者数を2009年と2011年の月別の訪日外国人旅行者数で比較をするとわかるように、景気の後退や感染症、そして地震の影響を受け、訪日外国人旅行者数は減少しているが、COVID-19ほどの影響を受けていない。JNTOの推計では、2020年4月から前年同月比99.9%減となっている。

そのため、今後も自然災害や人的災害など様々なリスクが予想されるため、COVID-19のような感染症だけでなく、イベント参加者が懸念するリスクに対する認識度合いを明らかにすることは今後の対策を考えるうえで大いに役に立つと考えられる。そこで、本研究では、事例として中国人と台湾人に対して、アンケート調査を実施し、イベントに参加する際に懸念するリスク要因にける認識度合いを考察する。本研究において中国人と台湾人を調査対象としたのは、2つの理由がある。一つ目は、2019年の訪日外国人旅行者数の7割は東アジア諸国の旅行者であり、過去の統計データにおいても中国人と台湾人は訪日外国人旅行者数の常に上位を占めていることである。二つ目は、中国と台湾はともに東アジアの漢民族を中心とした国・地域であるため、メンタリティの酷似が想定される。酷似していることを想定したうえでイベント参加においてリスク要因の差異が生じるかを明らかにすることは学術的意義があると考えられるからである。

2. 先行研究

観光産業は、自然災害や人的災害に影響を受けやすいと言われ、観光産業におけるリスクについて多くの研究者があらゆる視点から議論をしている。リスクの定義においては、Sheng-Hshiang, Gwo-Hshiang, & Kuo-Ching (1997) は、リスクとは旅行中や目的地で観光者に降りかかる数々の起こりうる不幸であるとし、Le & Arcodia (2018) は、リスクとは負の連鎖や発生する可能性を指すと定義している。また、自然災害においては、自然災害には火山噴火や集中豪雨など、人的災害には戦争、テロ、暴動などが含まれる (Sonmez, Apostolopoulos, & Tarlowni, 1999)。

高松 (2018) によると、安全・安心な観光地であることは、魅力的かつ美しい観光地であることと同じくらい重要であると指摘されている。今日、COVID-19 の影響により、観光産業、特に国際観光はこれまでにないほどの大きな打撃を受けており、安全・安心を最大限に考慮した旅行が重要な要素となっている。Neuburger & Egger (2020) によると、COVID-19 が流行病 (パンデミック) であると発表される前後では、発表後の方が旅行者が旅行日程を変更したり、キャンセルする意思が高まると指摘している。また、岩本・原・松尾 (2020) は、中国人と台湾人を対象にアンケート調査を実施し、海外旅行に行く際の旅行者が懸念するリスクを明らかにしている。その結果、中国人は「傷害・暴行」や「デモ」をよりリスクと捉えており、現地での状況を気にする傾向にある。一方、台湾人は「窃盗・詐欺」や「余暇活動中の事故」をよりリスクと捉えており、旅行中の被害を気にする傾向にある。国・地域によってリスク要因の認識が異なる可能性を示している。

このように多くの先行研究によって、想定されるリスクには様々な種類があり、観光者への行動に何らかの影響を与えることが明らかになっている。今日、未曾有の感染症の世界的な流行により、安全・安心に対する危機意識は高まっており、観光産業においてもリスク・マネジメントの重要性は増している。こうしたリスクはイベント産業においても同様である。イベントにけるリスク・マネジメントの先行研究の多くは、主催者や参加者の「健康と安全」が焦点となっており、様々なリスク要因における認識度合いを考察した論文は少ない。そこで、本研究ではイベント参加者に焦点をあて、事例として台湾人と中国人を対象に調査を行う。

3. 研究の方法

(1) 調査の概要

本研究の目的を明らかにする手段として、2020年7月に中国人と台湾人を対象に中国語でオンラインアンケートを実施し、中国人140名と台湾人131名の計271名のアンケート票を収集した。

オンラインアンケートは、2部構成である。第1部は、回答者の属性情報は、性別、年齢、

職業の3項目としている。第2部では、イベント参加者が懸念するリスクに関する項目を5段階評価（「非常にそう思う」「そう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」）で構成している。先行研究から人的危機・災害と自然災害に関する項目を参考に15の質問項目（「交通事故」「窃盗・詐欺」「傷害・暴行」「余暇活動中の事故」「地震」「台風」「集中豪雨」「津波」「火山噴火」「放射能漏れ」「戦争」「テロ」「暴動」「デモ」「感染症」）とした。

(2) 分析の方法

分析の方法では、まず回答者の属性情報とイベント参加者が懸念するリスク要因の認識度を記述統計を用いて分析・評価する。また、中国人と台湾人の2つのグループ間の項目ごとのリスク要因の認識度合いの差異を明らかにするために、ロジスティック回帰分析を用いる。帰無仮説と対立仮説は下記の通りである。

H0：中国人と台湾人のイベント参加におけるリスク要因の認識度合いに差がない

H1：中国人と台湾人のイベント参加におけるリスク要因の認識度合いに差がある

4. 研究の結果

表1は、回答者の属性情報を示している。中国人回答者が141名で、台湾人回答者が130名である。中国人回答者の男女比は、女性が104名（74%）、男性が37名（26%）である。台湾人回答者の男女比は、女性が77名（59%）、男性が53名（41%）である。中国人回答者の年齢層は、10代が7名（5%）、20代が92名（65%）、30代が20名（14%）、40代が15名（11%）、60代が2名（1%）、70代が1名（1%）である。一方、台湾人回答者の年齢層は、10代が4名（3%）、20代が57名（44%）、30代が6名（5%）、40代が19名（15%）、50代が40名（31%）、60代と70代がそれぞれ2名（2%）である。職業においては、中国人回答者では、会社員・公務員が48名（34%）、アルバイトが1名（1%）、学生が41名（29%）、主婦・主夫が29名（21%）、未回答者が22名（16%）である。また、台湾人回答者は、会社員・公務員が82名（63%）、アルバイトが10名（8%）、学生が27名（21%）、主婦・主夫が8名（6%）、未回答が3名（2%）である。

表1 回答者の属性

	中国人回答者 (N = 141)		台湾人回答者 (N = 130)	
	回答者数	割合 (%)	回答者数	割合 (%)
性別				
女性	104	74	77	59
男性	37	26	53	41
年齢				
10代	7	5	4	3
20代	92	65	57	44
30代	20	14	6	5
40代	15	11	19	15
50代	4	3	40	31
60代	2	1	2	2
70代	1	1	2	2
職業				
会社員・公務員	48	34	82	63
アルバイト	1	1	10	8
学生	41	29	27	21
主婦・主夫	29	21	8	6
未回答	22	16	3	2

表2では、回答者がイベントに参加する際に懸念するリスク要因の認識度合いについて中国人と台湾人の結果を示している。

中国人回答者の中で最も平均値が高い項目は、「テロ行為」($M=4.21$)である。次に平均値が高い項目は、「感染症」($M=4.18$)であり、3番目に平均値が高い項目は、「暴動」($M=4.17$)となっている。その他の平均値が4.0以上の項目は、「放射能漏れ」($M=4.09$)、「戦争」($M=4.08$)、「火山噴火」($M=4.04$)、「津波」($M=4.02$)の順になっている。また、平均値が4.0以下の項目は、高い順から「傷害・暴行」($M=3.96$)、「地震」($M=3.90$)、「窃盗・詐欺」($M=3.82$)、「デモ行為」($M=3.76$)、「交通事故」($M=3.74$)、「余暇活動中の事故」と「台風」($M=3.72$)、集中豪雨($M=3.50$)となっている。中国人回答者の中で標準偏差が最も高い数値を示している項目は、「戦争」($SD=1.243$)であり、最も低い数値を示している項目は、「窃盗・詐欺」($SD=0.988$)である。

台湾人回答者の中で最も平均値が高い項目は、「感染症」($M=4.32$)である。平均値が4.0以上となった項目は、感染症のみである。次に平均値が高い項目は、「テロ行為」($M=3.98$)

であり、3番目に平均値が高い項目は、「窃盗・詐欺」($M=3.91$)となっている。次いで、平均値が高い順に「暴動」($M=3.90$)、「傷害・暴行」($M=3.89$)、「津波」($M=3.88$)、「余暇活動中の事故」($M=3.87$)、「戦争」($M=3.85$)、「放射能漏れ」($M=3.82$)、「交通事故」($M=3.81$)、「火山噴火」($M=3.80$)、「地震」($M=3.73$)、「台風」($M=3.67$)、「集中豪雨」($M=3.59$)、「デモ行為」($M=3.54$)となっている。台湾人回答者の中で標準偏差が最も高い数値を示している項目は、「戦争」($SD=1.289$)であり、最も低い数値を示している項目は、「感染症」($SD=0.998$)である。

表2 イベントに参加する際に懸念するリスク認識

	中国人回答者 (N = 141)		台湾人回答者 (N = 130)	
	平均値 (M)	標準偏差 (SD)	平均値 (M)	標準偏差 (SD)
交通事故	3.74	1.045	3.81	1.042
窃盗・詐欺	3.82	0.988	3.91	1.030
傷害・暴行	3.96	1.061	3.89	1.150
余暇活動中の事故	3.72	1.191	3.87	1.102
地震	3.90	1.191	3.73	1.119
台風	3.72	1.191	3.67	1.109
集中豪雨	3.50	1.156	3.59	1.153
津波	4.02	1.162	3.88	1.194
火山噴火	4.04	1.192	3.80	1.272
放射能漏れ	4.09	1.177	3.82	1.268
戦争	4.08	1.243	3.85	1.289
テロ行為	4.21	1.120	3.98	1.260
暴動	4.17	1.089	3.90	1.200
デモ行為	3.76	1.183	3.54	1.195
感染症	4.18	1.093	4.32	0.998

表3の項目は、有意水準5%において、帰無仮説は棄却され、対立仮説が採択される。中国人は、「地震」において台湾人よりもリスクに対する認識が高い傾向にある。一方で、台湾人は、「感染症」において中国人よりもリスクに対する認識が高い傾向にある。その他の13の質問項目においては、中国人と台湾人とで差異が見られなかった。

表3 国籍別のロジスティック回帰分析結果

	係数	標準偏差	Wald 統計量	P 値
地震	-0.649	0.302	4.613	0.032
感染症	0.979	0.264	13.711	0.000

$R^2 = .136$ (Cox-Snell), $.181$ (Nagelkerke)

従属変数：中国人回答者と台湾人回答者（中国人=0, 台湾人=1）

独立変数：15 の質問項目（表2）

5. 考 察

本研究では、イベント参加者が懸念するリスク要因の認識度合を明らかにするために事例として中国人と台湾人を対象に調査した結果、リスクに関する15項目において全体的に中国人回答者の方が台湾人回答者より平均値が高かった。全体的に中国人回答者の方が多くの項目をリスクと認識をしている可能性がある。15項目の中で最もリスクと認識している項目においては、中国人回答者は「テロ行為」と答えており、台湾人回答者は「感染症」と答えている。中国人回答者も2番目に「感染症」と答えているのは、世界的に流行しているCOVID-19が影響を与えていると考えられる。台湾人回答者も「テロ行為」を2番目に挙げている。イベントでは多くの人々が一堂に介するという特性を持っているため、無差別テロの場合は被害が広範囲に及ぶため一般的にリスクとして捉えられていると考えられる。先行研究でも「テロ行為」においては、危険なイメージが定着しやすく、リスク要因の認識が高いことが指摘されていたが、本研究でも同様の結果が出ている。中国人回答者のアンケート調査において3番目に平均値が高かったのは「暴動」であるため、中国人回答者の多くは、「テロ行為」や「暴動」など破壊行為に対する認識度合いが高いと言える。一方で、台湾人回答者のアンケート調査において3番目に平均値が高かったのは「窃盗・詐欺」であるため、「窃盗・詐欺」を身近な被害をして捉えている可能性がある。

ロジスティック回帰分析を用いた結果では、中国人回答者は、「地震」をよりリスクと捉えている一方で、台湾人回答者は、「感染症」をよりリスクと捉える傾向があることを示している。20世紀に中国で発生した自然災害による死者数のうち、地震によるものが50%以上を占めており自然災害による死傷被害の中でも第一位である（何，2008）。今回の調査結果でも中国人回答者が地震をよりリスク要因として捉えていると考えられる。台湾は、2003年に流行した重症急性呼吸器症候群（SARS: Severe Acute Respiratory Syndrome）の経験から感染症流行時に緊急対応を行う中央流行疫情指揮中心（CECC: Central Epidemic Command Center）を設置しており、いち早く新型コロナウイルス感染症の拡散防止を務めている（Cha, 2020）。こう

した背景が、台湾人回答者の「感染症」への危機意識を高くしていると考えられる。

今回実施したアンケート調査では、15項目のうち差異が認められたのは2項目のみであったが、国・地域によってリスク要因の認識が異なる可能性を示していると言える。今後も自然災害や人的災害などが発生する事態に備えて、発生した際にイベントなどの MICE の再開がインバウンド観光の早期回復につながるため、国・地域によってリスク要因の認識度合いが異なることを想定した包括的なリスク・マネジメントが必要である。また、インバウンド観光の回復には、訪日外国人観光客が旅行先で安全・安心を認識できるような環境を提供し、例えば自然災害や人的災害が発生したとしてもすぐに関連情報が入手できるような対策が必要である。

6. 結 論

本研究では、イベント参加者が懸念するリスク要因の認識度合いを明らかにするために事例として中国人・台湾人回答者のアンケート調査を行った。その結果、双方とも「感染症」と「テロ行為」への認識度合いが高くことが明らかとなった。一方で、リスク要因の認識度合いおえる双方の差異においては、中国人回答者が「地震」、台湾人回答者が「感染症」をよりリスクと捉える傾向があることが分かった。本研究では、国・地域によって自然災害の被害の大きさや政府の対策による危機意識の違いがリスク要因の認識度合いに影響することを明らかにしている。また、岩本・原・松尾（2020）が中国人と台湾人を対象に「旅行」を題材に行った研究と本論文の中国人と台湾人を対象に「イベント参加」を題材に行った研究では、リスク要因において差異があることも明らかとなった。

本研究の結果は、中国人・台湾人回答者のアンケート調査でも感染症への認識度合いが高い結果が出たのは、COVID-19 による影響が強く今日の社会情勢がアンケート調査結果に反映されていると考えられる。また、訪日外国人旅行者数が常に上位である韓国についての調査についても今後の課題である。今回の調査は、比較対象となった国・地域のリスク・マネジメントに対してどちらが優れているといった優劣について議論をしているわけではない。今後の研究では、他国・地域におけるリスク要因の認識度合いの比較を継続的に行う一方で、イベント開催に向けたリスク・マネジメントに関する観光政策について調査する必要がある。

【注】

1. MICE とは、団体や企業が主催する各種会議（Meeting）、企業が販売促進を目的に、代理店・セールスマンなどの優れた業績に対し報酬・奨励として実施する招待旅行や行事（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際団体や協会が主催する総会・学会などの大会や会議（Convention）、展示会やスポーツ大会（Exhibition/Event）の頭文字を使った造語である（浅井、2015）。

2. 4. MICE 推進アクションプランでは、計画内容を自治体等関係者に幅広く告知、大規模なプロモーションを実施、MICE の実態調査や関係者による連絡協議会の立ち上げの3つの取り組みがなされた（観光庁，2007）。
3. Japan MICE year では、記念シンポジウムの開催、新規事業の実施、PR を強化し、インバウンド観光の促進に寄与することが目的である（観光庁，2010）。
4. 「グローバル MICE 戦略都市」及び「グローバル MICE 強化都市」は、MICE に特化した都市を選定し、モデルとして示すことを目的としている（観光庁，2013）。
5. 本文にある訪日外国人旅行者数は、日本観光政府局の統計データを参照にしている。（2020.9.20 閲覧）

【参考文献】

[日本語]

浅井新介（2015）『マイス・ビジネス入門』日本ホテル教育センター

何永年（2008）「中国の地震防災の現状と展望」（2021.1.05 閲覧），

https://spc.jst.go.jp/hottopics/0901earthquake/r0901_he.html

観光庁（2013）「グローバル MICE 戦略都市」及び「グローバル MICE 強化都市」（2019.12.20 閲覧），

https://www.mlit.go.jp/kankochu/news07_000049.html

観光庁（2010）「Japan MICE Year」（2020.12.19 閲覧），<https://www.mlit.go.jp/common/000056951.pdf>

観光庁（2017）「MICE の経済波及効果及び市場調査事業」（2019.12.20 閲覧），

<https://www.mlit.go.jp/common/001182932.pdf>

高松正人（2018）『観光危機管理ハンドブック：観光客と観光ビジネスを災害から守る』朝倉書店

田部井正次郎（2010）『イベント&コンベンション概論』JHRS

岩本英和・原忠之・松尾徳朗（2020）「旅行者が懸念する「リスク」に関する一考察」『日本観光研究学会 全国大会 学術論文集』，35, 117-120.

[英語]

Cha, V. (2020). Asia's COVID-19 lessons for the West: public goods, privacy, and social tagging. *The Washington Quarterly*, 1-18.

Lau, C. K. H., Milne, S., & Johnston, C. S. (2005). MICE, ICT and local economic development: The case of Te Kahurangi, New Zealand. *Journal of Convention & Event Tourism*, 7(1), 61-75.

Le, T. H., & Arcodia, C. (2018). Risk perceptions on cruise ships among young people: Concepts, approaches and directions. *International Journal of Hospitality Management*, 69, 102-112.

Neuburger, L., & Egger, R. (2020). Travel risk perception and travel behaviour during the COVID-19 pandemic 2020: a case study of the DACH region. *Current Issues in Tourism*, 1-14.

Park, K., & Reisinger, Y. (2010). Differences in the perceived influence of natural disasters and travel risk on international

travel. *Tourism Geographies*, 12(1), 1-24.

Sheng-Hsiung, T., Gwo-Hsiung, T., & Kuo-Ching, W. (1997). Evaluating tourist risks from fuzzy perspectives. *Annals of Tourism Research*, 24(4), 796-812.

Sönmez, S. F., Apostolopoulos, Y., & Tarlow, P. (1999). Tourism in crisis: Managing the effects of terrorism. *Journal of Travel Research*, 38(1), 13-18.

International comparison on risk perception of event attendees: A case study of Chinese and Taiwanese

Hidekazu Iwamoto

Abstract

This study employs a quantitative approach, conducting an online questionnaire survey on risk perception of Chinese and Taiwanese. Moreover, logistic regression was conducted to analyze the differences of risk perception between Chinese and Taiwanese. Researchers collected 140 Chinese respondents and 131 Taiwanese respondents, totaled 271 questionnaires. In the results of the questionnaire survey, the mean score of Chinese respondents is totally higher than that of Taiwanese respondents. Both respondents regard 'Contagious disease' and 'terrorism' as the highest and the second highest items in 15 questions. In addition, the results of the binary logistic regression analysis show that Chinese respondents tend to have higher risk perception on 'earthquake' than Taiwanese respondents do, while Taiwanese respondents tend to have higher risk perception on 'Contagious disease' than Chinese respondents do. Level of risk perception differs from country to country and region to region. Therefore, it is important to have risk management plan considered characteristics of the people of country or region.

Key words: MICE, Event, risk management, questionnaire survey